

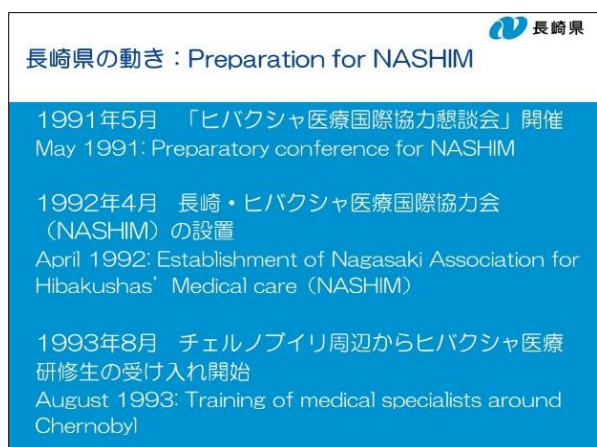
皆様こんにちは。

長崎県福祉保健部長の寺原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は2015年に厚生労働省に入省いたしまして、2016年の8月より2年間環境省に出向しておりました。

その際に福島県の県民健康調査を担当していたこともありまして、川内村へもお伺いをしてまいります。

また業務でチェルノブイリにも訪問したこともございます。本日は、パネリストの皆様と活発な意見交換をできればと思っております。



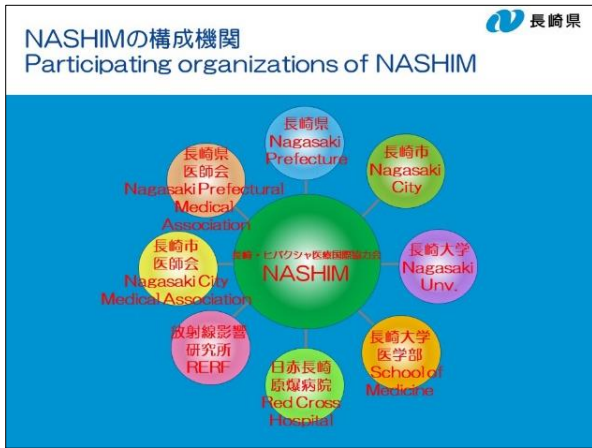
まずは、ナシムの成り立ちとこれまでの活動実績につきまして説明をさせていただきます。

ナシムは1992年に在外被爆者及び世界各地で発生している放射線被爆事故による被災者等の救済を目的として設立されました。今年で設立30年を迎えます。

1986年にウクライナのチェルノブイリ原発事故が発生し、1990年に国際原子力機関 (IAEA) において専門家チームが設置され実態調査が行われました。

翌年の1991年2月の県の議会におきまして、知事より長崎の被爆者治療の実績を国外の被曝者の医療に活用するため

の体制づくりを表明いたしまして、ヒバクシャ医療に関する国際協力を目的とし、「ヒバクシャ医療国際協力懇談会」の開催を経まして、翌1992年に長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) の設立に至っております。



ナシムは、長崎大学、長崎大学病院、日本赤十字社長崎原爆病院、放射線影響研究所、長崎県医師会、長崎市医師会などのヒバクシャ医療に携わる医療機関等と長崎県、長崎市で構成されております。長崎県原爆被爆者援護課に事務局を置かせていただいております。

長崎ヒバクシャ医療国際協力 (NASHIM)
Mission of NASHIM

人材育成の取組: Personnel training
チェルノブイリ・セミパラチンスクなどの世界の放射線汚染地域でヒバクシャ医療に従事する人材を育成するための事業 (研修生の受け入れ、専門医師の派遣、医学教科書の出版)
後継者育成の取組: Training of future specialists
ヒバクシャ医療を通じての国際貢献と平和希求の精神を継承する後継者を育成するための事業を実施 (講演会の開催、事業紹介パネル展の開催、啓蒙図書の作成、永井隆平和記念・長崎賞の授与)
ヒバクシャ医療情報の受発信: Exchange of information on Hibakusha's medical care
国際ヒバクシャ医療情報の収集・発信と緊急被ばく医療に対応できるようなホームページの充実

設立以来、ナシムは長崎が有する被爆者治療の実績及び放射線被害に関する調査研究の成果をヒバクシャ医療に有効に生かしてもらうため、チェルノブイリ関連諸国とカザフスタンなどの被災地や被爆者が多く居住する韓国からの医師等受入れ研修や専門医師等の派遣を実施し、ヒバクシャ医療に携わる人材を育成して参りました。

医師等受入れ研修につきましては、1993年に独自事業としてチェルノブイリ関連諸国のロシア、ベラルーシ、ウクライナから研修生受け入れを開始し、長崎大学原爆後障害医療研究所、長崎大学病院、日本赤十字社長崎原爆病院等の被爆者医療や放

射線障害研究施設で約1ヶ月間の研修を実施しております。

1995年からは韓国からの研修生受け入れ事業を開始してありまして、1996年以降はカザフスタンからも研修生を受け入れております。

カザフスタンは、カザフスタン共和国のセミパラチンスクというところが旧ソ連の原爆・水爆の実験場であります。

住民が放射線障害を起こしたということで、カザフスタンからも研修生を受け入れております。

例年、チェルノブイリ関連諸国・カザフスタンからの研修生を5、6名、韓国からの研修生を20名程度受け入れておりますが、昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大により受入れ研修事業は中止を余儀なくされました。今年度は代替事業といたしまして、英語、ロシア語、韓国語に対応した講義を動画配信する「ヒバクシャ医療eラーニング研修」を実施することとし、今年2月が受講期間となっております。

専門家派遣事業は、被災地での医療技術指導、医療情報提供等を行うため、ウクライナやベラルーシ、カザフスタンを訪問し、各国政府や医療機関関係者との会談、セミナーの開催、検診活動等を行って参りました。

専門家派遣事業につきましては、コロナ禍で渡航が困難であるため、昨年度・今年度におきましては派遣を中止しております。

普及啓発事業
Publicity and education campaigns on
NASHIM's activities



また、これまでに発刊した医学教科書はチェルノブイリ原発事故で大きな被害を受けた周辺国の医科大学や病院で医療従事者の貴重な教材として活用されております。

この他、普及啓発事業といたしまして毎年機関誌「NASHIM」を発行しております。さらに、NASHIMの活動事業、ヒバクシャ医療についての情報を掲載したパネルの展示などを行っております。

こちらが平成31年10月に開催された第21回ながさき国際協力・交流フェスティバルに出展した、パネル展示の様子でございます。

出前講座 Visiting Lecture



また、普及啓発事業の一つといたしまして平成19年度からNASHIM構成機関所属の専門家が県内の小中学校へ出向き、ヒバクシャ医療国際協力や放射線等についての講話を行う出前講座を実施しております。

令和3年度は小学校4校、中学校8校の計12校から申し込みがあり、延べ1038名の生徒さんたちが被爆直後の救護活動や放射線・紫外線についての講義を受けられました。

実施後のアンケートでは、90パーセント以上の生徒さんたちがよくわかった・まあまあわかったと回答されております。

永井隆平和記念・長崎賞
The Takashi Nagai Memorial Nagasaki
Peace Award



原子爆弾による被爆者と放射線被曝事故等による被災者に対する治療及び調査・研究等の分野において、ヒバクシャ医療の向上・発展、ヒバクシャの福祉の向上を通じ世界平和に貢献し、将来にわたる活躍が期待される国内外の個人または団体に隔年毎に贈る。

To award individual and/or organizations both domestically and overseas, for their contributions made into developing or improving the investigation into or research of medical diagnosis and related social welfare, nuclear accidents and so on.

平成7年には、長崎原子爆弾被爆50周年にあたり、故永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぎ、国際社会におけるヒバクシャ医療の向上、発展に貢献のあった方を広く顕彰するため、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設し、隔年で受賞式を行っております。現在まで15名の受賞者を数えます。

本日、第1部で特別講演をいただきましたビュルツブルグ大学名誉教授のクリストフ・ライナー先生は、第8回の受賞者になります。

永井隆平和記念・長崎賞
The Takashi Nagai Memorial Nagasaki
Peace Award



第13回 永井隆平和記念・長崎賞授賞式
The 13th Memorial To Takashi Nagai Peace Memorial Prize Award Ceremony

こちらは昨年度の授賞式で、東京大学名誉教授で、放射線医学研究所の元理事長である佐々木康人（ささき やすひと）先生が受賞されたときの様子でございます。

令和3年2月4日にオンラインで授賞式が行われました。



平成31年度 チェルノブイリ・カザフスタン 医師受入研修の様子

県といたしましては、「長崎県総合計画」及び「長崎県福祉保健総合計画」におきまして、NASHIM の活動を位置付けております。

国外に居住する被爆者及び世界各地で発生している放射線被ばく事故による被災者を救済するため、各構成機関の皆様と力を合わせて、今ご紹介いたしました活動を継続することにより、長崎から世界への貢献を推進していきたいと考えております。私からは以上でございます。